

令和 3 年

消 防 統 計

乙訓消防組合消防本部

令和3年消防統計目次

消防統計の概要	・ ・ ・	1 ～ 5
1 火災統計		
(1) 火災概要	・ ・ ・ ・ ・	6
(2) 市町別概要	・ ・ ・ ・ ・	7
(3) 出火原因別の火災件数と損害額	・ ・ ・ ・ ・	8
(4) 月別状況	・ ・ ・ ・ ・	9
(5) 火災種別損害額	・ ・ ・ ・ ・	9
(6) 覚知方法別件数	・ ・ ・ ・ ・	9
(7) 時間帯別件数	・ ・ ・ ・ ・	10
(8) 曜日別件数	・ ・ ・ ・ ・	10
2 その他災害統計		
(1) その他災害種別の件数	・ ・ ・ ・ ・	11
(2) 市町別その他災害種別の件数	・ ・ ・ ・ ・	11
(3) 覚知方法別件数	・ ・ ・ ・ ・	12
(4) 時間帯別件数	・ ・ ・ ・ ・	12
(5) 曜日別件数	・ ・ ・ ・ ・	13
3 救助統計		
(1) 事故種別出場件数及び活動件数	・ ・ ・ ・ ・	14
(2) 市町別出場件数	・ ・ ・ ・ ・	15
(3) 事故種別救出人員	・ ・ ・ ・ ・	16
(4) 発生場所別出場件数及び活動件数	・ ・ ・ ・ ・	17
4 救急統計		
(1) 事故種別出場件数及び搬送人員	・ ・ ・ ・ ・	18
(2) 年齢区分別事故種別搬送人員	・ ・ ・ ・ ・	19
(3) 事故種別傷病程度別搬送人員	・ ・ ・ ・ ・	19
(4) 年齢区分別傷病程度別搬送人員	・ ・ ・ ・ ・	20
(5) 傷病程度別搬送人員	・ ・ ・ ・ ・	20
(6) 市町別出場件数	・ ・ ・ ・ ・	21
(7) 消防署別出場件数	・ ・ ・ ・ ・	22
(8) 救急隊員が行った応急処置状況	・ ・ ・ ・ ・	23

消防統計の概要

1 火災統計

(1) 出火状況

ア 令和3年の出火件数は29件で、前年に比べ3件の増加となっている。

また、火災による死者は2名となっている。

火災種別では、「建物火災」が17件で前年に比べ1件の減少、「林野火災」は1件で1件増加、「車両火災」は5件で3件の増加、「その他火災」は6件で同件数となっている。

〔1(1)火災概要〕

イ 市町別発生件数では、出火件数29件中、「向日市」が12件、「長岡京市」が13件、「大山崎町」が4件となっている。

〔1(2)市町別概要〕

ウ 月別の出火状況は、「2月」及び「3月」が5件で17.2%と最も高く、次いで「8月」及び「11月」が各4件で13.8%、「4月」及び「7月」が各3件で10.3%、「9月」及び「12月」が各2件で6.9%、「1月」が1件で3.4%の順となっている。

また、月別の損害額については、2月の87,345千円が最も多い。

〔1(4)月別状況〕

エ 時間帯別件数は、「不明」が8件で最も多く、次いで「2時～4時」、「10時～12時」、「12時～14時」、「18時～20時」及び「22時～24時」が各3件、「8時～10時」が2件、「0時～2時」、「4時～6時」、「6時～8時」及び「16時～18時」が各1件となっている。

〔1(7)時間帯別件数〕

オ 曜日別件数は、「水曜日」及び「木曜日」が各5件と最も多く、次いで「日曜日」、「月曜日」及び「土曜日」が各4件、「金曜日」が3件、「火曜日」及び「不明」が各2件となっている。

〔1(8)曜日別件数〕

(2) 出火原因

出火件数29件中「放火」及び「その他」が各6件と最も多く、次いで「ストーブ」及び「不明」が各3件、「たばこ」及び「電気機器」が各2件、「放火の疑い」、「こんろ」、「配線器具」、「マッチ・ライター」、「たき火」、「溶接機・切断機」及び「灯火」が各1件となっている。

〔 1(3)出火原因別の火災件数と損害額〕

(3) 損害額

ア 損害額は、131,555千円となっており、前年に比べ103,332千円の増加となっている。内訳としては、「建物火災」による損害額が102,174千円の増加、「車両火災」は1,153千円の増加、「その他火災」は5千円の増加となっている。

〔 1(1)火災概要〕

イ 火災種別損害額では、「建物火災」が130,371千円で全体の99.1%を占めている。

〔 1(5)火災種別損害額〕

(4) 覚知方法別件数

覚知方法別件数は29件中、「事後聞知」（消防が鎮火後に覚知したもの。爆発の場合は、消防機関が実際に出火又は再爆発の危険がなくなったと推定又は認定した時分が、覚知時分以前のもの）が11件で37.9%と最も多く、次いで「火災報知専用電話（携帯電話）」が10件で34.5%、「火災報知専用電話（固定電話）」（NTT加入電話を除く）が4件で13.8%、「加入電話（固定電話）」が2件で6.9%、「火災報知専用電話（固定電話）」（NTT加入電話）及び「駆け付け通報」が各1件となっている。

〔 1(6)覚知方法別件数〕

2 その他災害統計

(1) その他災害発生件数及び種別件数

その他災害の発生件数は34件で、前年の19件に比べ15件の増加となっている。また、災害種別の発生件数は、「交通」が22件、次いで「危険物」が10件、「自然」及び「ガス・酸欠」が1件となっている。

〔 2(1)その他災害種別の件数〕

(2) 市町別件数

市町別の発生件数は、「向日市」が13件、「長岡京市」が15件、「大山崎町」が6件となっている。

〔 2(2)市町別その他災害種別の件数〕

(3) 覚知方法別件数

覚知方法別の災害件数は、「その他」が13件で38.2%、「火災報知専用電話（携帯電話）」が11件で32.4%、次いで「加入電話（固定電話）」

が6件で17.6%、「火災報知専用電話（IP電話）」が3件で8.8%、「加入電話（携帯電話）」が1件で2.9%となっている。

〔2(3)覚知方法別件数〕

(4) 時間帯別件数

時間帯別の発生件数は、「8時～10時」が7件と最も多く、次いで「12時～14時」、「14時～16時」、「16時～18時」及び「18時～20時」が各5件、「10時～12時」が3件、「22時～24時」が2件、「0時～2時」及び「6時～8時」が各1件となっている。

〔2(4)時間帯別件数〕

(5) 曜日別件数

曜日別の発生件数は、「水曜日」、「木曜日」及び「土曜日」が各7件と最も多く、次いで「火曜日」が4件、「月曜日」、「金曜日」及び「日曜日」が各3件となっている。

〔2(5)曜日別件数〕

3 救助統計

(1) 出場件数及び活動件数

救助活動の状況は、出場件数が67件、活動件数は54件で、前年に比べると出場件数は16件の増加、活動件数は11件の増加となっている。

〔3(1)事故種別出場件数及び活動件数〕

(2) 市町別件数

出場件数を市町別でみると、「向日市」が22件、「長岡京市」が29件、「大山崎町」が12件、「その他の市町」には4件出場している。

〔3(2)市町別出場件数〕

(3) 救出人員

救出人員は53人で、前年に比べると10人増加している。また、事故種別の内訳は、「建物等による事故」が30名、次いで「交通事故」が9名、「火災建物」及び「その他の事故」が各6名、「機械による事故」が2名となっている。

〔3(3)事故種別救出人員〕

4 救急統計

(1) 出場件数及び搬送人員

出場件数は6,285件で前年に比べ257件の増加、搬送人員については5,761人で前年に比べ214人の増加であり、1日あたりの出場件数は17.2件、搬送人員は15.8人となっている。

〔4(1)事故種別出場件数及び搬送人員〕

(2) 事故種別

事故種別出場件数は、「急病」が3,983件で全体の63.4%、次いで「一般負傷」の1,088件で17.3%、「交通事故」529件で8.4%となっており、これらが全体の約9割を占めている。

〔4(1)事故種別出場件数及び搬送人員〕

(3) 年齢区分

ア 年齢区分別事故種別の搬送人員は、「急病」では搬送人員3,690人中2,423人が「高齢者」で65.7%、次いで「成人」の958人で26.0%、「乳幼児」が218人で5.9%となり、全体の半数以上を「高齢者」が占めている。

〔4(2)年齢区分別事故種別搬送人員〕

イ 「交通事故」では、搬送人員499人中296人が「成人」で59.3%、次いで「高齢者」の140人で28.1%、「少年」の46人で9.2%となっている。

〔4(2)年齢区分別事故種別搬送人員〕

ウ 「一般負傷」では、搬送人員1,013人中774人が「高齢者」で76.4%、次いで「成人」の127人で12.5%、「乳幼児」の80人で7.9%となっている。

〔4(2)年齢区分別事故種別搬送人員〕

(4) 傷病程度

傷病程度別搬送人員では、搬送人員5,761人中2,845人が「軽症」で49.4%になり約半数を占めている。

〔4(3)事故種別傷病程度別搬送人員〕

(5) 市町別出場件数

市町別出場件数では、「向日市」が2,378件で37.8%、「長岡京市」が3,245件で51.6%、「大山崎町」が627件で10.0%、「乙訓

管外」が35件で0.6%となっている。

〔4(6)市町別出場件数〕

(6) 消防署別出場件数

消防署別出場件数では、「向日消防署」が2,137件で34.0%、「長岡京消防署」が2,010件で32.0%、「長岡京消防署東分署」が1,041件で16.6%、「大山崎消防署」が1,097件で17.5%となっている。

〔4(7)消防署別出場件数〕

※ 本文中のパーセント(%)表示の数値については、小数点第2位を四捨五入しているため、実際の数値とは合致しない場合があります。

1 火災統計

(1) 火災概要

区	分	単 位	令和3年	令和2年	増減(△印減)
出火件数	建物		17	18	△ 1
	林野		1		1
	車両		5	2 (1)	3 (△ 1)
	その他		6	6	
	計	件	29	26 (1)	3 (△ 1)
焼損棟数	全焼		5	3	2
	半焼		4		4
	部分焼		5	6	△ 1
	ぼや		18	17	1
	計	棟	32	26	6
焼損床面積		㎡	832	265	567
焼損表面積		㎡	28	59	△ 31
林野焼損面積		a	1		1
死者		人	2	1	1
負傷者		人	10	6	4
り災世帯数	全損		8	2	6
	半損		5		5
	小損		21	19	2
	計	世帯	34	21	13
り災人員		人	72	51	21
損害額	建物		130,371	28,197	102,174
	林野				
	車両		1,177	24	1,153
	その他		7	2	5
計		千円	131,555	28,223	103,332
出火率		件/人口1万人	1.9	1.7	0.2

※ 「死者」には、火災により負傷した後、48時間以内に死亡した者を含む。

※ 出火率とは、人口1万人当りの出火件数をいう。

※ ()内は高速道路の火災を表す。

※ 高速道路は、名神高速道路上下線及び大山崎枝線上とする。

(2) 市町別概要

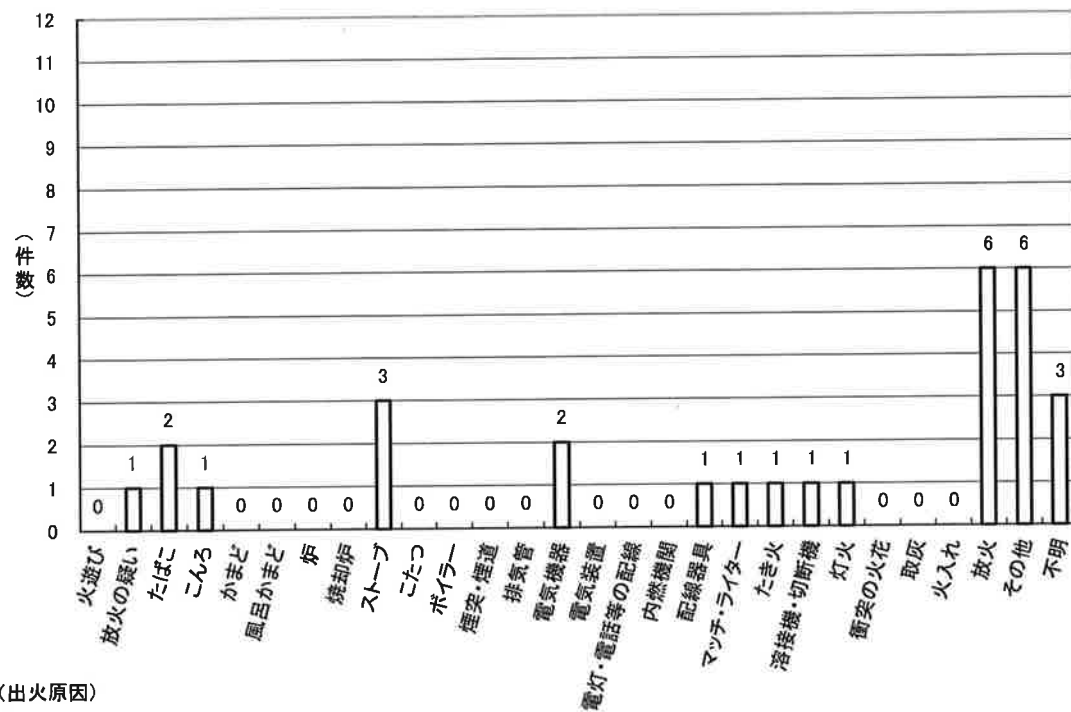
区	分	単 位	向日市	長岡京市	大山崎町
出火件数	建物		7	8	2
	林野			1	
	車の両		1	3	1
	その他		4	1	1
	計	件	12	13	4
焼損棟数	全焼		4		1
	半焼		3	1	
	部分焼		2	2	1
	ぼや		11	6	1
	計	棟	20	9	3
焼 損 床 面 積		m ²	440	63	329
焼 損 表 面 積		m ²	20	2	6
林 野 焼 損 面 積		a		1	
死 者		人		1	1
負 傷 者		人	4	5	1
り災世帯数	全損		7		1
	半損		3	2	
	小損		14	6	1
	計	世帯	24	8	2
り 災 人 員		人	45	23	4
損害額	建物		87,913	4,652	37,806
	林野				
	車の両		2	871	304
	その他		7		
	計	千円	87,922	5,523	38,110
出 火 率		件/人口1万人	2.1	1.6	2.5

※ 「死者」には、火災により負傷した後、48時間以内に死亡した者を含む。

※ 出火率とは、人口1万人当りの出火件数をいう。

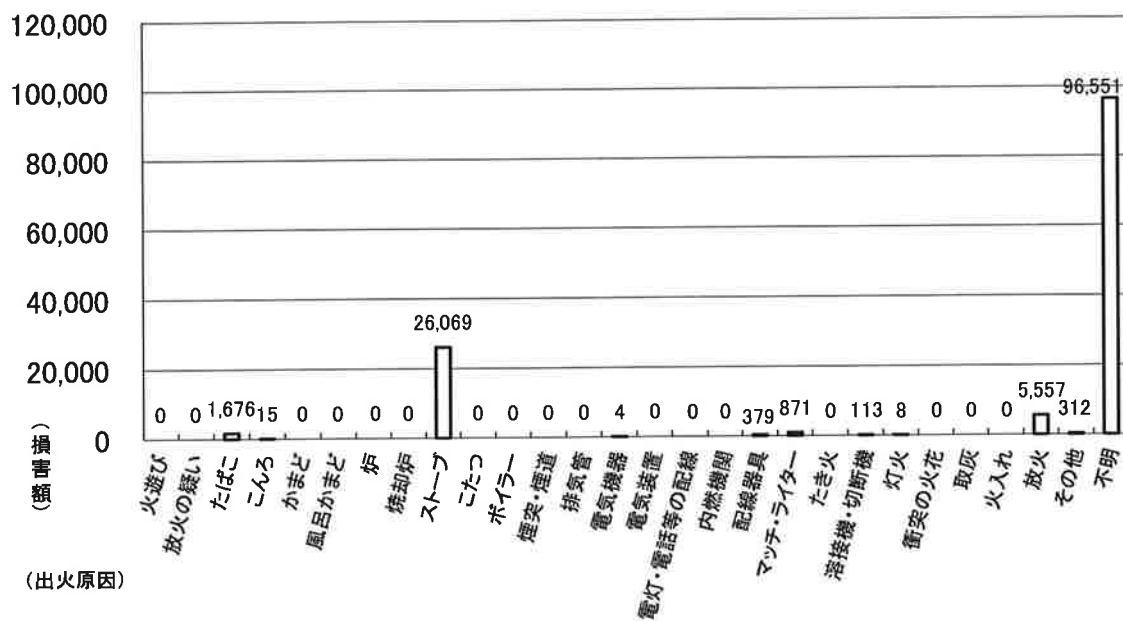
(3) 出火原因別の火災件数と損害額

火災件数(件)



(出火原因)

損害額(千円)



(出火原因)

(4) 月別状況

月別	区分	出火件数 (件)	割合 (%)	損害額 (千円)	割合 (%)
1	月	1	3.4	37,806	28.7
2	月	5	17.2	87,345	66.4
3	月	5	17.2	1,251	1.0
4	月	3	10.3	311	0.2
5	月				
6	月				
7	月	3	10.3	4,652	3.5
8	月	4	13.8	67	0.1
9	月	2	6.9	8	0.0
10	月				
11	月	4	13.8	115	0.1
12	月	2	6.9		
合 計		29	100.0	131,555	100.0

※ 割合については、小数点第2位を四捨五入しているため合計と合致しない場合があります。

(5) 火災種別損害額

火災種別	区分	出火件数 (件)	割合 (%)	損害額 (千円)	割合 (%)
建 物 火 災		17	58.6	130,371	99.1
林 野 火 災		1	3.4		
車 両 火 災		5	17.2	1,177	0.9
そ の 他 の 火 災		6	20.7	7	0.0
合 計		29	100.0	131,555	100.0

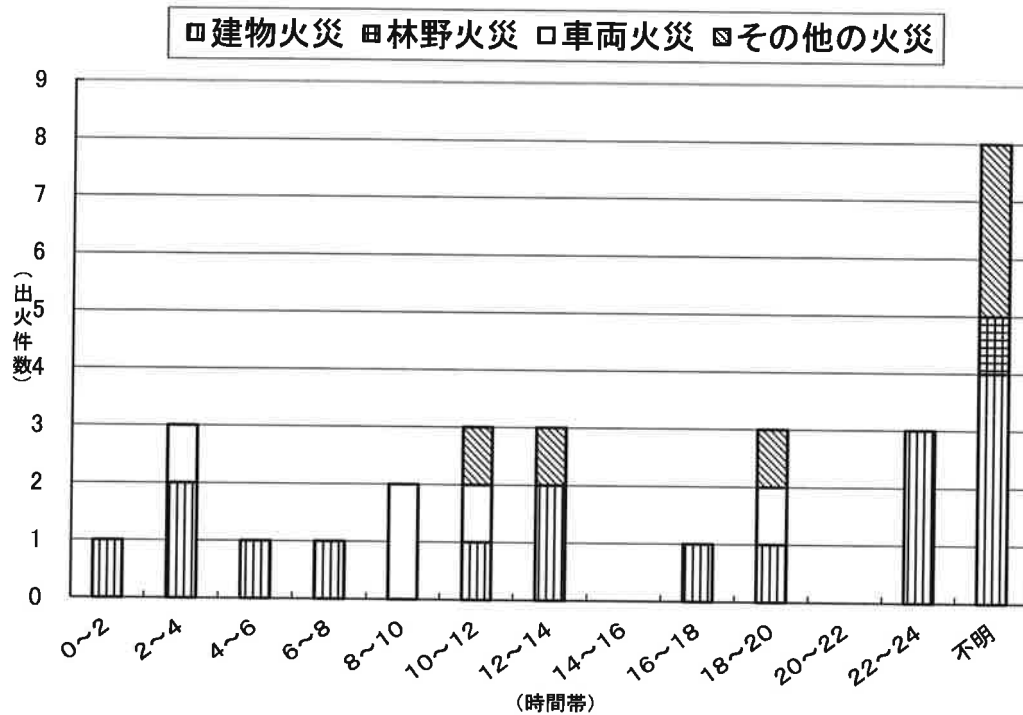
※ 割合については、小数点第2位を四捨五入しているため合計と合致しない場合があります。

(6) 覚知方法別件数

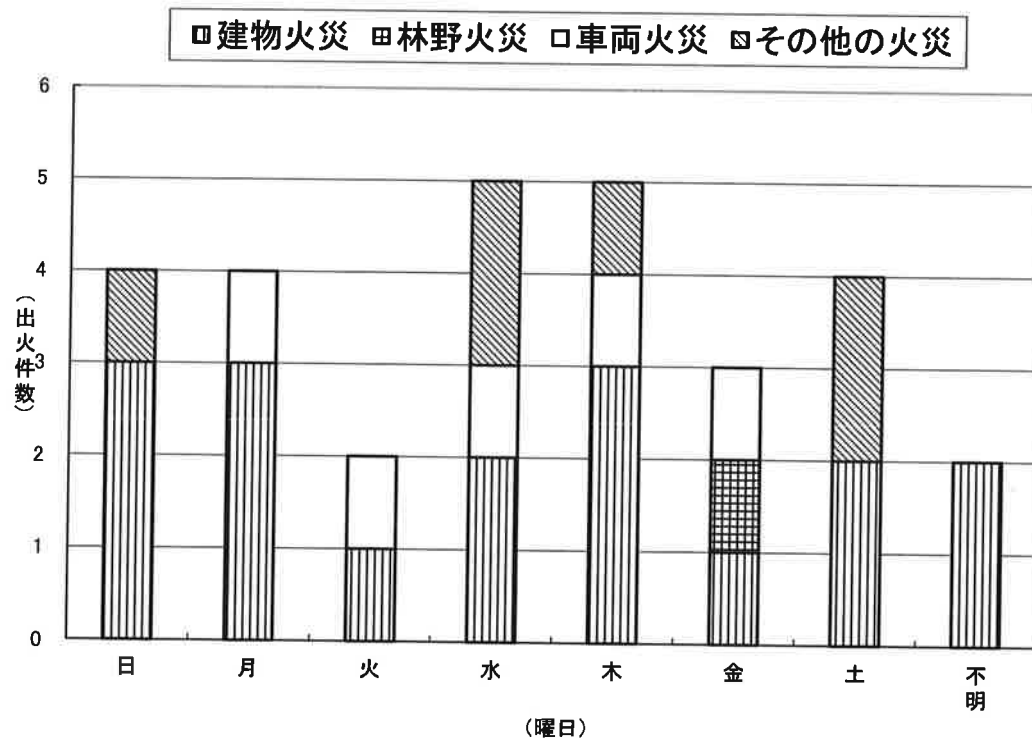
覚知方法	区分	出火件数 (件)	構成比 (%)
火災報知専用電話 固定電話から(NTT加入電話を除く)		4	13.8
火災報知専用電話 固定電話から(NTT加入電話)		1	3.4
火災報知専用電話 携帯電話から		10	34.5
加入電話(固定電話から)		2	6.9
加入電話(携帯電話から)			
警察電話			
駆け付け通報		1	3.4
事後聞知		11	37.9
そ の 他			
合 計		29	100.0

※ 構成比については、小数点第2位を四捨五入しているため合計と合致しない場合があります。

(7) 時間帯別件数



(8) 曜日別件数



2 その他災害統計

(1) その他災害種別の件数

種 別 \ 年	令和3年	令和2年	増減(△印減)
交 通	22	12	10
水 難			
自 然	1		1
機 械			
危 険 物	10	5	5
建 物 等			
ガ ス ・ 酸 欠	1	2	△ 1
爆 発			
そ の 他			
計	34	19	15

(2) 市町別その他災害種別の件数

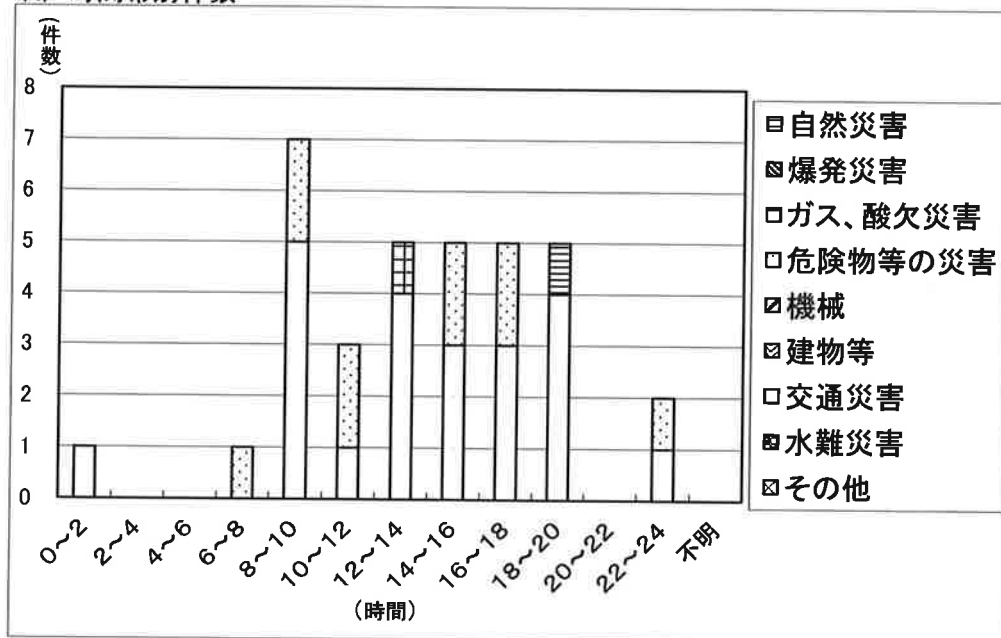
種 別 \ 市 町 別	向日市	長岡京市	大山崎町
交 通	10	7	5
水 難			
自 然		1	
機 械			
危 険 物	3	6	1
建 物 等			
ガ ス ・ 酸 欠		1	
爆 発			
そ の 他			
計	13	15	6

(3) 覚知方法別件数

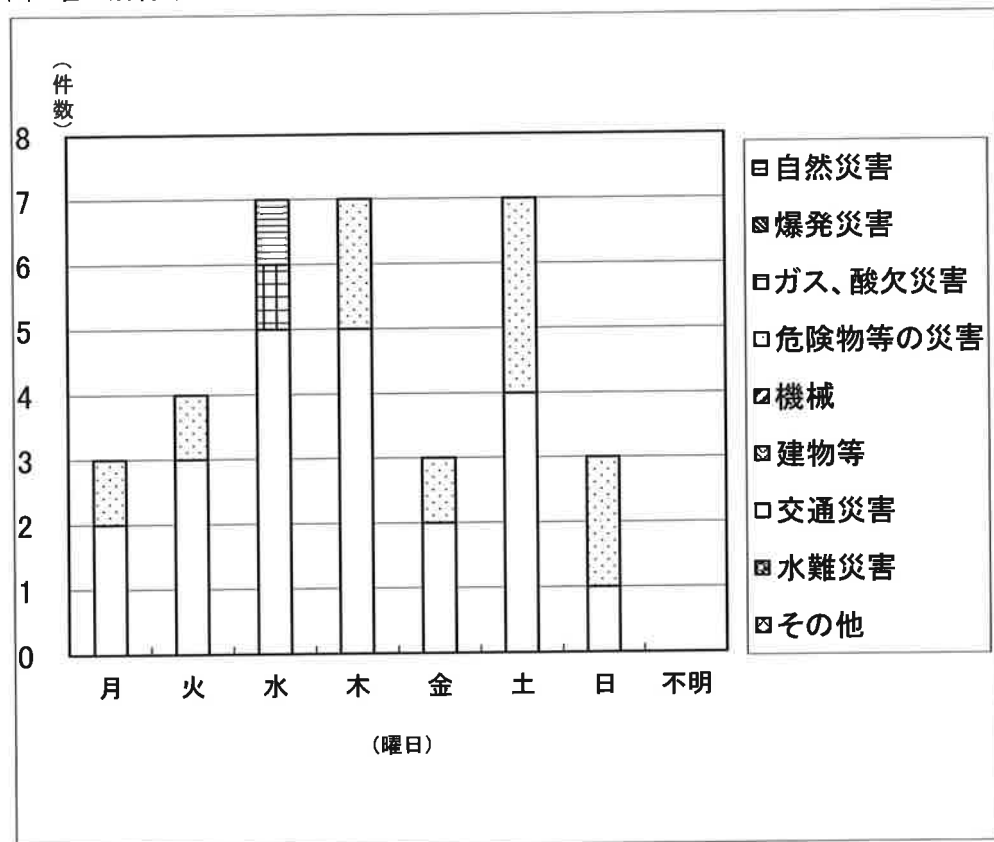
覚知方法	区 分	災害件数 (件)	構成比 (%)
火災報知専用電話(固定電話から)			
火災報知専用電話(携帯電話から)		11	32.4
火災報知専用電話(IP電話から)		3	8.8
加入電話(固定電話から)		6	17.6
加入電話(携帯電話から)		1	2.9
警 察 電 話			
駆 け 付 け 通 報			
事 後 聞 知			
西日本高速道路			
そ の 他		13	38.2
合 計		34	100

※ 構成比については小数第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合があります。

(4) 時間帯別件数



(5) 曜日別件数



3 救助統計

(1) 事故種別出場件数及び活動件数

事故種別 件数区分		令和3年		令和2年		増減(△印減)	
		出場件数	活動件数	出場件数	活動件数	出場件数	活動件数
火 災	建 物	7	7	1	1	6	6
	建物以外						
交 通 事 故		15 (3)	7	9 (2)	3	6 (1)	4
水 難 事 故		2	2	2	1		1
風水害等自然災害							
機 械 に よ る 事 故		2				2	
建物等による事故		30	30	28	28	2	2
ガス及び酸欠事故							
爆 発 事 故							
そ の 他 の 事 故		11	8	11	10		△ 2
計		67 (3)	54	51 (2)	43 (2)	16 (1)	11 (△ 2)

※ ()内は、高速道路救助出場件数を表す。

※ 高速道路は、名神高速道路上下線及び大山崎枝線上とする。

(2) 市町別出場件数

市町別 事故種別		向日市	長岡京市	大山崎町	その他の市町	計
火 災	建 物	3	3	1		7
	建物以外					
交 通 事 故		4	5 (1)	5 (1)	1 (1)	15 (3)
水 難 事 故					2	2
風 水 害 等 自 然 災 害						
機 械 に よ る 事 故		2				2
建 物 等 に よ る 事 故		10	15	4	1	30
ガ ス 及 び 酸 欠 事 故						
爆 発 事 故						
そ の 他 の 事 故		3	6	2		11
計		22	29 (1)	12 (1)	4 (1)	67 (3)

※ ()は、高速道路救助出場件数を表す。

※ 高速道路は、名神高速道路上下線及び大山崎枝線上とする。

(3) 事故種別救出人員

事故種別		救 出 人 員		
		令和3年	令和2年	増 減 (△ 印 減)
火 災	建 物	6		6
	建 物 以 外			
交 通 事 故		9 (1)	3	6 (1)
水 難 事 故				
風 水 害 等 自 然 災 害				
機 械 に よ る 事 故		2		2
建 物 等 に よ る 事 故		30	28	2
ガ ス 及 び 酸 欠 事 故				
爆 発 事 故				
そ の 他 の 事 故		6	12	△ 6
計		53 (1)	43	10 (1)

※ () は、高速道路救助出場における救出人員を表す。

※ 高速道路は、名神高速道路上下線及び大山崎枝線上とする。

(4) 発生場所別出場件数及び活動件数

発生場所		件数区分	令和3年		令和2年		増減(△印減)	
			出場件数	活動件数	出場件数	活動件数	出場件数	活動件数
屋内	住居		35	34	25	25	10	9
	その他の屋内		3	3	1	1	2	2
屋外	道路	高速道路国道	3	1	2		1	1
		その他の道路	9	5	9	5		
	水面	内水面	2	2	3	2	△1	
		外水面						
	山岳		5	4	6	5	△1	△1
	その他の屋外		10	7	4	4	6	3
地下								
その他					1	1	△1	△1
計			67	56	51	43	16	13

※ 内水面－河川・湖沼・池・プール等内陸における水上又は水中(ただし、河川敷やプールのシャワー室等は含まない。)

※ 外水面－上記以外の水上又は水中

4 救急統計

(1) 事故種別出場件数及び搬送人員

年別等	令和3年		令和2年		増減(△印減)	
件数等 事故種別	出場件数	搬送人員	出場件数	搬送人員	出場件数	搬送人員
火 災	14	8	9 (1)	5	5 (△ 1)	3
自 然 災 害						
水 難			1		△ 1	
交 通 事 故	529 (11)	499 (12)	499 (5)	487 (6)	30 (6)	12 (6)
労 働 災 害	43	42	44	43	△ 1	△ 1
運 動 競 技	75	76	58	62	17	14
一 般 負 傷	1,088	1,013	1,098	1,037	△ 10	△ 24
加 害	17	13	17	11		2
自 損 行 為	50	34	41	29	9	5
急 病	3,983 (2)	3,690 (1)	3,846 (4)	3,556 (3)	137 (△ 2)	134 (△ 2)
そ の 他	486 (1)	386	415	317	71 (1)	69
計	6,285 (14)	5,761 (13)	6,028 (10)	5,547 (9)	257 (4)	214 (4)
一日平均件数	17.2	15.8	16.5	15.2	0.7	0.6

注：()内は、「うち高速道路救急出場件数及び搬送人員」を表す。

(2) 年齢区分別事故種別搬送人員

事故種別 年齢区分	急 病	交通事故	一般負傷	その 他	計
新 生 児	3		2		5
乳 幼 児	218	17	80	4	319
少 年	88	46	30	35	199
成 人	958	296	127	240	1,621
高 齢 者	2,423	140	774	280	3,617
計	3,690	499	1,013	559	5,761

※ 新生児：生後28日未満
乳幼児：生後28日以上満7歳未満
少 年：満7歳以上満18歳未満
成 人：満18歳以上満65歳未満
高齢者：満65歳以上

(3) 事故種別傷病程度別搬送人員

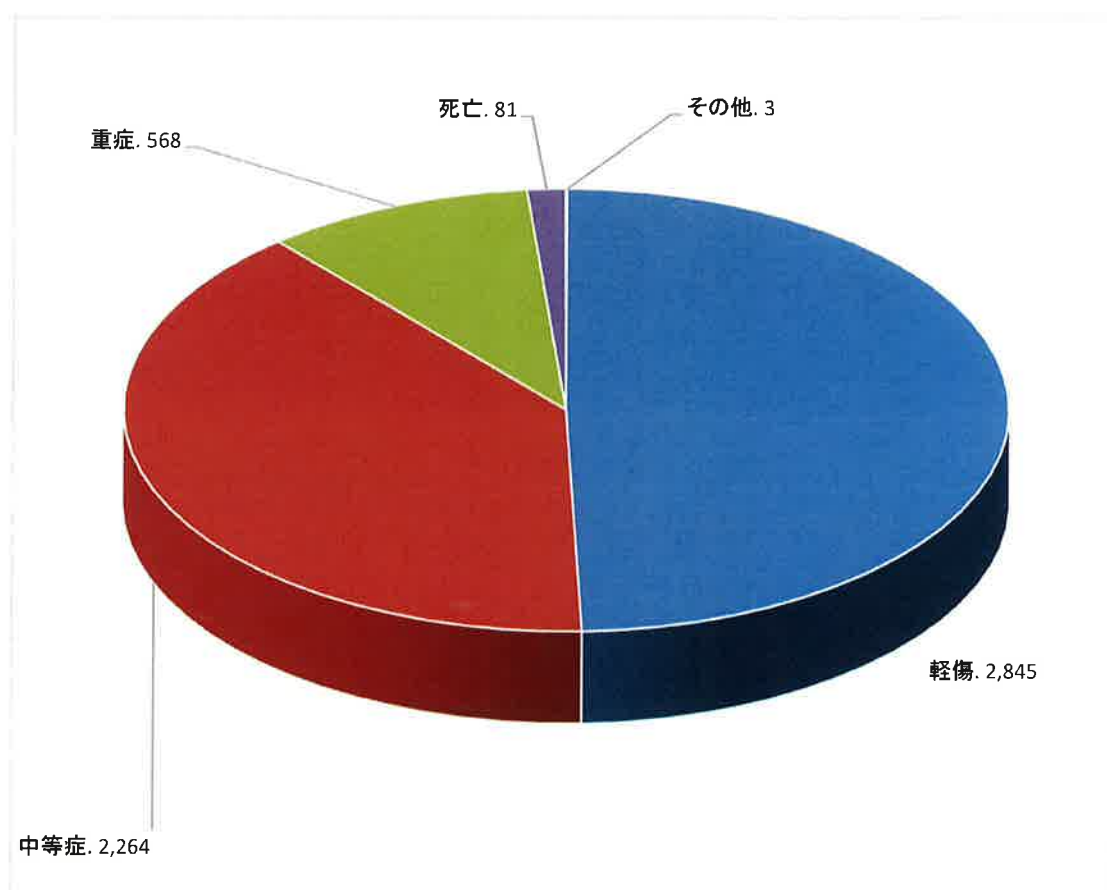
傷病程度 事故種別	死 亡	重 症	中等症	軽 症	その 他	計
急 病	73	353	1,522	1,741	1	3,690
交 通 事 故		20	85	392	2	499
一 般 負 傷	1	115	325	572		1,013
そ の 他	7	80	332	140		559
計	81	568	2,264	2,845	3	5,761

※ 死 亡：初診時において、死亡が確認されたもの
重 症：傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの
中等症：傷病の程度が入院を必要とするもので、重症に至らないもの
軽 症：傷病の程度が入院を必要としないもの
その他：医師の診断がないもの及び「その他の場所（接骨院等）」へ搬送したもの

(4) 年齢区分別傷病程度別搬送人員

年齢区分 傷病程度	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	計
死亡				9	72	81
重症		7	1	84	476	568
中等症	2	75	29	489	1,669	2,264
軽症	3	235	169	1,039	1,399	2,845
その他		2			1	3
計	5	319	199	1,621	3,617	5,761

(5) 傷病程度別搬送人員



(6) 市町別出場件数

事故種別 地域名		急 病	交 通 事 故	一 般 負 傷	そ の 他	計
向 日 市	3年	1,530	219	413	216	2,378
	2年	1,572	204	436	155	2,367
増 減 (△ 印 減)		△ 42	15	△ 23	61	11
長 岡 京 市	3年	2,025	232 (2)	564	424	3,245 (2)
	2年	1,910	227	545	387	3,069
増 減 (△ 印 減)		115	5 (2)	19	37	176 (2)
大 山 崎 町	3年	418	62 (6)	106	41	627 (6)
	2年	354	49 (4)	115	38	556 (4)
増 減 (△ 印 減)		64	13 (2)	△ 9	3	71 (2)
京 都 市	3年	9 (1)	14 (1)	5	4 (1)	32 (3)
	2年	6	17 (1)	2	4	29 (1)
増 減 (△ 印 減)		3 (1)	△ 3	3	(1)	3 (2)
島 本 町	3年	1 (1)				1 (1)
	2年	2 (2)	1			3 (2)
増 減 (△ 印 減)		△ 1 (△ 1)	△ 1			△ 2 (△ 1)
そ の 他	3年		2 (2)			2 (2)
	2年	2 (2)	1		1 (1)	4 (3)
増 減 (△ 印 減)		△ 2 (△ 2)	1 (2)		△ 1 (△ 1)	△ 2 (△ 1)
合 計	3年	3,983 (2)	529 (11)	1,088	685 (1)	6,285 (14)
	2年	3,846 (4)	499 (5)	1,098	585 (1)	6,028 (10)
増 減 (△ 印 減)		137 (△ 2)	30 (6)	△ 10	100	257 (4)

注：()内は、「うち高速道路救急出場件数」を表す。

(7) 消防署別出場件数

事故種別 消防署名		急 病	交 通 事 故	一 般 負 傷	そ の 他	計
向日消防署	3年	1,356	168	384	229	2,137
	2年	1,350	164	427	195	2,136
増減(△印減)		6	4	△ 43	34	1
長岡京消防署	3年	1,235	166	342	267	2,010
	2年	1,213	137	332	235	1,917
増 減 (△ 印 減)		22	29	10	32	93
東 分 署	3年	661	112	188	80	1,041
	2年	643	108	166	53	970
増 減 (△ 印 減)		18	4	22	27	71
大山崎消防署	3年	731	83	174	109	1,097
	2年	640	90	173	102	1,005
増 減 (△ 印 減)		91	△ 7	1	7	92
合 計	3年	3,983	529	1,088	685	6,285
	2年	3,846	499	1,098	585	6,028
増 減 (△ 印 減)		137	30	△ 10	100	257

(8) 救急隊員が行った応急処置状況

事故種別 応急処置対象人員		急 病	交通事故	一般負傷	そ の 他	計
処置事項		3,690	499	1,013	559	5,761
止	血	12	23	69	13	117
固	定	8	125	65	36	234
人	工 呼 吸	13		2		15
心	マ ッ サ ー ジ	1				1
心	肺 蘇 生	111		2	9	122
酸	素 吸 入	631	20	38	121	810
気	道 確 保	155	3	5	10	173
	経 鼻 エ ア ウ ェ イ	2				2
	喉 頭 鏡、鉗 子 等					
	ラ リ ン ゲ ア ル マ ス ク	36			1	37
	気 管 挿 管	1				1
保	温	65	7	16	7	95
被	覆	15	104	222	32	373
在	宅 医 療	68		6	2	76
ショックパンツによる血圧の保持						
除	細 動	17		1	1	19
静	脈 路 確 保	32	2		3	37
薬	剤 投 与	13			2	15
そ の 他 の 応 急 処 置		3,528	481	972	508	5,489
血 圧 測 定		3,502	490	975	535	5,502
聴 診 器 に よ る 聴 取		1,596	166	307	183	2,252
血 中 酸 素 飽 和 度 測 定		3,577	493	1,005	553	5,628
心 電 図 測 定		1,275	29	89	111	1,504
計		14,619	1,943	3,774	2,126	22,462

注：1 一人につき複数の応急処置を行う事もあるため、応急処置対象人員と事故種別ごとの処置項目の係数とは一致しない。

注：2 拡大された応急処置のうちショックパンツと自動式心マッサージ器は積載していない。